

## コロナ禍3年間の取り組みと コロナ後の新たな取り組みについて

社会福祉法人 慧誠会 やまびこ保育所  
南出 夏美



1

## ○事業所紹介

社会福祉法人 慧誠会 やまびこ保育所（帯広市）

設立：昭和56年4月1日

定員：90名

→現在の在園数は103名

→内、要支援児12名／特別支援児6名

職員：42名（パート、給食調理員等含む）

\*3～5歳児は縦割保育（週1回 横割保育あり）

\*園舎はお城のような形

\*法人内 他に保育所・夜間保育所 4ヶ所

学童保育所 5ヶ所（1ヶ所は保育所併設）

児童発達支援施設 3ヶ所

高齢、障がい者施設などもあります



2

## ○コロナ禍での保育

□スタートは『限定的な保育』  
→何をするにも“限定”、“縮小”

□子どもたちには最低限の制限で、色々工夫  
→マスクは大人と、着用が可能な子ども  
→給食は学校スタイル

□行事の見直し  
→内容検討のタイミングとコロナ禍が重複  
→職員の仕事量にも反映



3

## ○コロナ禍での保育

□情報発信の拡がり  
→ホームページ、ZOOM、動画配信など

■常に周りの目を気にしながら  
→コロナ前との比較や指摘  
→他の園との比較や指摘

■“できない”もどかしさ  
→経験不足、運動不足、体力低下・・・  
→縦、横それぞれの繋がりの大切さ



4

### ○コロナ禍を経て気付いたこと

- “繋がる事” って大事！
  - 子どもと、保護者と、地域と…
  - 子ども同士での関わりも
- 意外と何とかなる、むしろ良かったかも！
  - 変わらない事が安心、安定に繋がる子もいる
  - 色々な事を見直す事で、大切な部分を再確認
- 家庭時間が増えたはずなのに…
  - 障害？経験不足？
  - どうやって関わったらいいかわからない



5

### ○見えてきた課題と“これから”

- 『わからない』に向き合っていく
  - 生活背景はどうか、発達状況はどうか
  - 繋がるようになった事で見えてくるものがあるかも
- 何をするにも柔軟に
  - コロナ禍にもメリット、デメリット
  - 指摘や比較だけでなく折り合いをつけていく



6